
奏でる楽譜どおりに。

あるふぁ@空鍋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

奏でる楽譜どおりに。

【コード】

N0433U

【作者名】

あるふぁ@空鍋

【あらすじ】

そんなにみたいの？

私の楽器の中身。

あなたと私の愛の仕組みを。

先輩と私と楽器たちの、儂い弦楽四重奏。

(前書き)

ちよいと首をかしてもらおう。

時が過ぎて。

春。目覚めの季節。

高校の部活。 新入部員。

私は、私は、楽器を買った。

部活で必要だから。有り金はたいて。

ヴァイオリン。

ぎこぎこ音がする。

私のヴァイオリン。

物語の始まる、のこぎりの音。

楽器はおいしい。

私は楽器が好きだ。

空腹を私は楽器で満たす。

嘘だ。

昼休み、憧れの先輩と、音楽室で練習。

先輩は早弁。私は空腹。

先輩の空気を感じられればいい。

私はそれだけで、おなかいっぱいになるから。

「せんぱい、どうですか？」

「うむ。なかなかだね。」

私の音楽はめきめきと上達していった。

「おんがくは好きです。」

「僕もだよ。これほどに素晴らしいものを、僕はほかに知らないだらう。」

彼は、先輩は音楽が好きだ。

私は先輩と同じ楽器を買った。

先輩の楽器が憎かったのだ。先輩を知らない私よりも先輩を知っている。

ヴァイオリンの音は女の声。私を愚弄するかのような、かなきりこえ。

私は大嫌いなその楽器の魂柱を、こっそりと捨ててしまった。

彼は気付かない。

魂の抜かれたその身体で奏でる、陳腐な、失恋した女の叫びを、彼は何も想わずに聞いている。

「どうしたんだい？」

「いいえ、すこしおもいだしてしまいました。」

「いったいどうしたんだい、きみらしくないなあ。」

思わず笑ってしまう。

「わたしらしくないですか？」

ふりをする。

「いいや、きのせいだらう。きみはきみだ。」

先輩に頭を下げる。先輩は私の頭をなでる。

「きみはかわいい。」

先輩が。うれしい。

「ずっと、こうしていたい。」

わたしもですよ。

「しかし、そうながくはつづかない。」
なぜ？

「僕は、受験生だ。もうすぐ。7月からは、新しいレッスンを受けに行かないといけない。」
私は？

「君はもう十分にいいだらう。潮時というものだ。」

「わたしをおいていってしまうのですか？」
いいや。

「そういうことになるだらう。君には部を率いてもらいたい。将来的に。」

「わたしはせんぱいのがすきなのです」

「薄々は感づいていたよ。」
しかし、

「しかし、僕には音楽が聞こえるんだ。だからもうすこし、僕を信じて待つていてくれないか？」

「はい。よろこんで。」

「勝手に済まない。僕はいずれ戻ってくる。」

先輩は楽器を抱えて部屋を後にする。

先輩は気付かなかった。弓を私が持っていることに。慌てて戻ってくる。

「おつといけない。忘れ物をしてしまった。」

先輩は戻ってきた。

ふふふ。

なんだって。思いどおりね。

なにが起こっても、それは私の掌の上で踊る、フィドル。

あなたは、私と協奏曲を奏で続けるのよ。

その日私は、私の5番目の指を、魂込めて、ぎいぎい。

魂柱は、私の真心込めた、きつと、素晴らしい音を奏でます。

先輩の大好きな、甘く切ない、時に攻撃的な、ストリングスの音。

楽器にはコンピューターがついている。

音を機械的により分ける機械。

私の一部は機械で、機械の中に組み込まれて、よい機械になるだろう。

メカではなく人体の一部、そして動物の一部が使われるようになった現在。

音楽。music of my heart .

(後書き)

感想を頂けたら嬉しいかもしれません。
ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0433u/>

奏でる楽譜どおりに。

2011年10月9日02時58分発行